

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—オンライン CIS 活動報告(ベトナム)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 国際人材育成部門

特任准教授(常勤) 勝又 美穂子

2021年9月13日～20日の期間でベトナムのハノイ、ハイフォン、そして日本を結んで、昨年度に続く二度目のオンラインカップリング・インターンシップ(CIS)を実施しました。本年度も引き続き新型コロナの影響で海外へ渡航出来ないことから、プログラムの目的や学習効果は最大限、現地実習と同様に据えてオンラインCISを実施しました。ベトナムCISには大阪大学の外国語学部3名、工学研究科2名、ハノイ工科大学(HUST)の経済・管理学部2名と機械工学部2名の計9名の学生が参加しました。

本学学生は5月から8回にわたり実施された事前研修で企業、文化、CIS課題等について学び、準備をしてきました。オンラインCIS開始後2日間の事前研修では、アイスブレイキングを目的としたコミュニケーションの研修、両国紹介、5S、3現主義などを含むものづくり日本企業の強み、溶接基礎知識、CIS実習テーマの検討などを学生が主体となり進めました。9月15日からはベトナム・ハイフォンにあるIHI Infrastructure Asia(IIA)とオンラインで接続し、企業紹介と、3日間に亘る日本人マネージャー及びベトナム人社員とのインタビューを実施しました。企業より頂戴したCISのテーマは「労働意欲における課題と対策」でした。学生はこの課題に関する多くの質問を準備し、限ら

れた時間の中でも熱心に社員の言葉に耳を傾けました。企業の皆様からはチームでタスクをやり遂げる楽しさ、仲間との関係等、仕事における労働意欲とは何かを多く共有頂きました。

最終日の9月20日はオンラインで最終報告会を開催しました。最終報告会には、IIAの山中工場長、HUSTのDr. Cuong(経済管理学科長)、Dr. Hanh(溶接工学金属技術学科長)、Dr. Huong(国際部長)他、阪大の清水教授、池田准教授(言語文化研究科)、菅特任教授(接合科学研究所)他、計20名が参加し、活発な議論が行われました。A・B両チームからは課題に対し、コミュニケーション、仕事環境、評価制度、健康、コミットメント等、様々な観点からの改善提案が行われました。山中工場長からは、「学生からの提案については今後内部で参考にしていきたい」とのお言葉を頂戴しました。参加学生からは、オンライン実施のため、企業の現状を正確に把握する難しさ、学生同士のコミュニケーションの難しさはあったものの、だからこそ一層思考を巡らせ論理的に考える訓練になった、活動を通して労働意欲について考え、自身の将来に大変参考になった、等のコメントがありました。

このような状況下でも、活動の意義をご理解頂き、ご支援下さいました企業、ハノイ工科大学に改めて御礼申し上げます。

